

時代の幕がめくられたか？
2019年3月場所観戦記

この場所の焦点は「新大関誕生か？」それとも再び「新たなヒーロー登場か？」の二点に絞られていた感がある。芸能ニュースなみの対応をするマスコミとしては、どちらに転んでも面白さはある。さて開けて見たら・・・・・・・・。

白鵬は初日から危なげなく白星を積み重ねて進んだ。相手のいなしで泳ぎかかっても、とっさの対応でバランスを持ち直す身軽さも目立ち、中日で全勝で単独トップに立ち、星一つの差で鶴竜・高安・豪栄道・逸ノ城・碧山が続き、久しぶりの横綱・大関決戦を予想した人もいたようだ。

しかし、後半戦に入ると横綱・大関が順に脱落し、いつものような展開になってきた。白鵬の表情は日を追って険しさを増すようになり、明らかに優勝を意識した顔つきと相撲ぶりだった。千秋楽まで逸ノ城が1敗で追いかけたが、結局白鵬の逃げ切りとなった。

白鵬の腰の構えは全盛期を思わせるような低さと柔らかさで、年齢を感じさせない相撲感を見せてくれ、42回目の優勝、通算1120勝を達成した。34才、もう下り坂に入っていると思えるが、ここぞと言うときには「精神力」「集中力」が「衰え」を補っている感じがした。

しかし、好事魔多しと言われるように、鶴竜を破って全勝優勝を決めた一番で右腕の筋肉を痛めてしまい、優勝賜杯を自分の手で持つことが出来ないという椿事の締めくくりとなってしまった。来場所に尾を引かなければ良いが、どうなるだろうか。

東関脇**貴景勝**は「大関昇進」を勝ち取ることができるか。前半戦で御嶽海・玉鷲に敗れてしまい、ことによると勝ち越しがやっとなかと思っただが、勢いを回復して鶴竜を撃破。22才の強心臓と言われてはいたが、白鵬・豪栄道に勝つことは出来ず、おまけに千秋楽に逸ノ城に敗れるというおまけも付き、10勝5敗とやや物足りない終わり方になった。ここ三場所の勝ち星が13勝・11勝・10勝と下降線であまりイメージが良くないが、鶴竜・高安に勝ったことを追い風として「ムード先行」の結果となった。星数としては安定感のある成績であるが、白鵬も指摘しているように大関またはそれ以上の地位を守っていくためには「突き押し」一本では行けないので、どこかで技のレパートリーを広げるべき時期が到来すると思われる。その壁を突破できれば次の地位もあるかもしれないが、今の時点では何とも言えない。

< 貴景勝の成績推移 >

| H30-5月 | H30-7月 | H30-9月 | H30-11月 | H31-1月 | H31-3月 | 六場所合計 |
|--------|--------|--------|---------|--------|--------|----------|
| 西10枚目 | 西3枚目 | 西小結 | 東小結 | 東関脇 | 東関脇 | 63勝27敗 |
| 10勝5敗 | 10勝5敗 | 9勝6敗 | 13勝2敗 | 11勝4敗 | 10勝5敗 | (0.7000) |

◆これ以前の8場所=62勝54敗4休 勝率=0.517

◆幕内在位通算成績=125勝81敗4休(14場所) 勝率=0.595

逸ノ城は千秋楽まで白鵬と優勝を争う形になったが、勝った相撲は「巨体を利して相手を叩きつぶした」ような相撲が目立ち、巧さや強さはあまり感じられなかった。

ここ一年の土俵を見ると、貴景勝・御嶽海・北勝富士・大栄翔・明生・竜電などの新しい力が確実に勢いを増してきている。また、今場所は振るわなかった阿武咲・錦木・朝乃山なども含めて、群雄割拠の時代となってきた。

貴景勝が一步抜け出す結果となりはしたが、「次に壁を突き破るのは誰か？」面白くなってきた。

御嶽海はまだ怪我からの復活が出来ていないようで、小結での勝ち越しができず来場所は平幕から出直しということになった。現在の相撲の完成度からすれば、近いうちに貴景勝に追いつくことは可能だと思うが、「怪我からの完全な復活」が最大のキーポイントになるだろう。

新小結となった**北勝富士**は、前半の上位戦で星があげられぬ内に調子を崩してしまい、終盤で「らしい相撲」が蘇りはしたが間に合わず7勝8敗に終わった。初めての三役で勝ち越せなくても、7勝で締めくくることができたのは「さすが・・・」の内に入る。

大栄翔の相撲は実直そのものを感じさせる突き押しで、見ている人を引き込む魅力がある。大勝ちはないが、少しずつ星を積み重ねて自己最高位二枚目まで辿り着いた。この地位での7勝8敗は、力を付けて来たことを示す、喜ぶべき結果で、来場所が楽しみである。

立浪部屋の**明生**は、新入幕の場所に跳ね返されて十両に戻ったが、すぐに再入幕を果たし、その後は勝ち越しを続けてきている。四つ相撲がベースではあるが、勢いのある立ち合いではず押しなどにも力強さがある。今場所も9勝6敗、少しずつ力を付けて少しずつ地位を上げていく、気になる存在になりつつある。

竜電は幕内中位と上位を往復しながら、じわじわと上へ上っている。安芸乃島（現高田川）仕込みの、基本に忠実でかつ粘り強い四つ相撲は「技巧派」を継承している。脇を固めた押っつけは圧力があり、腰の構えは合わせ技となって、相手を浮き上がらせる力強さがある。近頃珍しくなった「両差しが上手い力士」で、昔の信夫山・鶴ヶ嶺・成山、近くは安芸乃島などを思わせる。こういう力士が幕内上位にいと相撲が面白い。

壁にあたってもがいている**阿武咲・錦木・朝乃山**もいつまでも低迷していることはないだろうから、新大関誕生の追い風もあり、新しい波の活躍はまだまだ続きそうだ。**遠藤**はいつまでももたついていると、取り残されてしまうかもしれない。

そんな景色が広がってきた中で、見落としてはならないのがベテラン力士の存在。今場所は**琴奨菊・碧山**（敢闘賞）・**嘉風**の動きが光っていたが、来場所は誰が・・・？

今場所大関から陥落が決まった栃ノ心は大関に復帰するのは簡単ではないだろうし、豪栄道・高安にしても、身の危険が迫ってきていることは否めず、安閑としてはいられぬ状況になってきている。

来場所の見所が・・・、楽しみになってきた。

以上

◆日本相撲協会ホームページ

トップページ

<http://www.sumo.or.jp/>

3月場所星取り表

<http://www.sumo.or.jp/ResultData/hoshitori/1/1/>